

令和 7 年度（2025 年度）
一般社団法人 海峡都市関門 DMO
事業報告

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

I. 法人概況

(1) 本年度総括

一般社団法人海峡都市関門 DMO（以下、関門 DMO）は、2023 年に観光庁の「登録観光地域づくり法人（登録 DMO）」として登録され、日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）を指標に、北九州市・下関市の行政機関、民間企業・団体、大学との連携体制のもと、市境を越えた「ひとつの海のまち」としての観光地域づくりを進めてまいりました。

本年度は、これまでの取組が国際的な評価を得るとともに、その評価を地域の方針と体制に反映させる一年となりました。

その起点となったのが、関門エリアの「Green Destinations TOP100」選出です。同選出は、持続可能な観光の国際指標を満たし、優れた取組を実践している地域を対象とするものです。

この選出により求められる水準が高まったこと、またコロナ禍を経て旅行者の価値観が持続可能性や本物志向を重視する方向へ変化したことを踏まえ、「関門海峡観光振興ビジョン」を改訂いたしました。改訂では「地域の現状分析」の章を新設し、歴史的背景という地域の強みと克服すべき課題を明確にしています。あわせて、「観光消費の伸び悩み」への具体的な対応として、新規開業ホテルを含む地域事業者との連携強化による滞在型観光の促進を、新たな方針として位置づけました。

さらに、旧門司三井倶楽部にて開催された「第 16 回関門市長会談」に参加し、関門エリアの持続的な発展に向けた意見交換を行いました。関門 DMO が掲げるビジョンについて両市長より賛同を得るとともに、橋梁・トンネル・歴史的建造物などのインフラ資産を国際的に通用する観光コンテンツへと磨き上げる「インフラツーリズム」の拡充、地域に暮らす人々が関門海峡に愛着と誇りを持てる「シビックプライド」の醸成、の 2 点について、今後の連携・支援に係る合意に至りました。

これら一連の取組の結果として、「Green Destinations Top 100 Story Awards」において、関門エリアが「Destination Management」部門で世界第 3 位に選出されました。両市および民間企業・大学と構築してきた官民学連携による広域的なマネジメント体制と、地域資源を次世代へつなぐ観光戦略が評価されたものと受け止めております。

今後も多様な関係者の皆様との合意形成を図りながら、持続可能な観光地域づくりを一層推進してまいります。

(2) 沿革

2020 年（令和 2 年）10 月 2 日	一般社団法人 海峡都市関門 DMO 設立
2021 年（令和 3 年）3 月 31 日	観光庁「観光地域づくり候補法人（候補 DMO）」登録
2023 年（令和 5 年）3 月 31 日	観光庁「登録観光地域づくり法人（登録 DMO）」登録
2023 年（令和 5 年）10 月 1 日	「関門海峡観光振興ビジョン」策定
2023 年（令和 5 年）11 月 2 日	観光庁 JSTS-D ロゴマーク 使用承諾
2023 年（令和 5 年）12 月 27 日	観光庁 2023 年度意欲ある DMO 認定
2025 年（令和 7 年）9 月 29 日	Green Destinations「TOP100」選出
2025 年（令和 7 年）10 月 1 日	「関門海峡観光振興ビジョン」改訂
2026 年（令和 8 年）3 月 4 日	Green Destinations Top 100 Story Awards 「Destination Management」部門 世界第 3 位

(3) 関門観光企画営業担当者会議・関門 DMO 定例会議

山口県下関市および福岡県北九州市の観光事業者による情報共有の場として、2007 年の発足以来、月 1 回の定例会議を継続的に開催しています。両市の行政担当者もオブザーバーとして同席し、官民が一堂に会する会議体として運営しています。

本会議の開催に併せ、関門 DMO の定例会を同日に開催しています。担当者会議ではエリア内の観光入込動向等のマーケティングデータを共有し、定例会では関門 DMO の事業計画および今後の取組について協議を行っています。

本年度は、関門 DMO 定例会を第 47 回から第 58 回まで計 12 回開催しました。開催実績は下表のとおりです。

・ 第 47 回	2025/04/14	長府観光会館
・ 第 48 回	2025/05/19	オンライン開催
・ 第 49 回	2025/06/09	春帆楼
・ 第 50 回	2025/07/14	オンライン開催
・ 第 51 回	2025/08/18	下関グランドホテル
・ 第 52 回	2025/09/08	オンライン開催
・ 第 53 回	2025/10/20	ふく処さかい
・ 第 54 回	2025/11/25	オンライン開催
・ 第 55 回	2025/12/22	海峡ビューしものせき
・ 第 56 回	2026/01/19	関門海峡ミュージアム
・ 第 57 回	2026/02/16	下関グランドホテル
・ 第 58 回	2026/03/09	オンライン開催

※回数は関門定例会議の通算開催回数

II. 事業実施概要

2025 年度は、訪日需要の拡大が続く一方で、その需要を地域内の周遊と消費に結びつけることが課題となる一年でした。訪日外国人旅行者数は前年を上回る水準で推移し、旅行消費額も過去最高を更新しました。国内旅行についても、物価の上昇が続くなかで堅調な推移を維持しています。クルーズ船の寄港も回復傾向にあり、関門海峡エリアにおいても、来訪者数の面ではインバウンド需要の回復が明確に現れています。

一方で、関門 DMO が把握してきた来訪動向によれば、北九州市を訪れた訪日外国人旅行者のうち下関市まで訪問した割合は約 20%にとどまり、両市をまたぐ周遊は十分に進んでいません。滞在の短さと観光消費の伸び悩みは、依然として地域の課題です。こうした認識のもと、本年度は、来訪者数の増加を滞在時間の延伸と消費額の拡大へ転換することを主眼に事業を進めました。

周遊の促進に向けては、両市を物理的に結ぶインフラ群の活用に着手しました。橋梁、トンネル、港湾、通信施設といった社会基盤を観光資源として捉え、施設管理者ごとに分かれていた連携の枠組みを整えるため、「関門海峡インフラツーリズム推進連絡会議」を設立しています。あわせて、瀬戸内海国立公園の魅力向上に向けて全 5 コースの体験型ツアーを実施し、その周遊を促す認定制度「関門海峡マイスター」を構築しました。

広域での連携としては、日本遺産「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」を活用したコンテンツの造成に取り組みました。観光庁の実証調査の採択を受け、シュガーロード連絡協議会および公益財団法人ながさき地域政策研究所と連携し、中華圏の富裕層を対象としたストーリーの構築を進めています。また、高付加価値型のコンテンツとして、和布刈神社の通常非公開の拝殿での特別拝観を核とした日帰りツアーを造成し、神社、料亭、交通事業者との連携により、海峡の信仰と食文化を一日で辿る行程として提供しました。

地域内消費の喚起については、地域共通クーポン「かんもん Pay」の利用促進を継続し、個人観光客向けの販売に加え、団体旅行や修学旅行、ふるさと納税との連携など、複数の販売経路における活用を進めました。

また、地域内での理解の醸成に向けて、両市内の小中学校および大学等における出前授業と、門司港レトロ地区でのフィールドスタディの受入を継続し、次世代に対する観光教育に取り組んでいます。

1. エリアマネジメント事業

関門DMOは、関門海峡エリアの観光事業者の支援および門司港レトロエリア関連事業を通じて、地域と連携した受入体制の整備に取り組んでいます。観光ガイドの育成と協力体制の構築を進めるとともに、観光施設の指定管理業務を支援し、地域の観光受入環境の向上を図っています。

事業名：持続可能な観光に向けた取り組み
世界的に持続可能な観光への関心が高まるなか、関門海峡エリアが国内外の旅行者から選ばれる観光地となるためには、地域のマネジメント体制の構築、コンテンツの造成、受入環境の整備を進め、オーバーツーリズムや気候変動といった課題に対応することが不可欠です。 関門DMOは2023年度、観光庁「持続可能な観光推進モデル事業」を活用し、地域が目指すべき姿と課題を明確化するとともに、これに基づく施策の検討・実施・分析・改善に取り組みました。2024年度は、GSTC-D（Global Sustainable Tourism Criteria for Destinations）および日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）を指標として、持続可能性に配慮した地域づくり、旅行商品の開発、宿泊施設の取組に対する支援を実施しました。 本年度は、これらの取組が次のとおり国際的な評価につながりました。 ・ Green Destinations「TOP100」選出（2025年9月29日） ・ 「関門海峡観光振興ビジョン」改訂（2025年10月1日） ・ Green Destinations Top 100 Story Awards「Destination Management」部門 世界第3位（2026年3月4日）

事業名：KANMON MY BOTTLE PROJECT（マイボトルプロジェクト）

関門 DMO は、関門海峡エリアを訪れる方々への快適な観光体験の提供と持続可能な観光の推進を目的として、「KANMON MY BOTTLE PROJECT」を実施しています。本プロジェクトは「FROM ONE BOTTLE, FOR ONE OCEAN（一つのボトルから、一つの海のために）」をスローガンに掲げ、マイボトルの利用促進と使い捨てプラスチックごみの削減を通じて、環境保全への貢献を目指すものです。

世界のペットボトル消費量は年間約 4,800 億本（2016 年時点）とされ、1 分間に約 100 万本が消費されています。このうち年間 500 万トンから 1,300 万トンがリサイクルされずに自然界へ流出し、海洋プラスチックごみとなっています。海洋生物への影響のみならず、人の健康への影響も懸念されており、本プロジェクトはペットボトルごみの削減による海洋環境の保全を重要な目的としています。

あわせて、年間を通じて多くの観光客が訪れる関門海峡エリアにおいて、オーバーツーリズムに起因する課題を未然に防ぎ、観光客と地域住民の双方が快適に過ごせる環境を構築することも本プロジェクトの狙いです。

2024 年度に、門司港エリアおよび下関エリアの計 21 か所へ給水スポットを設置しました。本年度は、これらの給水スポットの運用を継続するとともに、利用の定着に努めました。

○本年度の利用実績

本年度の給水量は約 4,900 リットルとなりました。500ml ペットボトルに換算すると約 9,800 本分に相当し、同数のペットボトルごみ削減に寄与したものと考えられます。

○給水スポット設置箇所（2024 年度設置）

- ・ 門司港エリア（15 か所）：旧門司三井倶楽部、旧門司税関、旧大阪商船、大連友好記念館、門司港レトロ展望室、港ハウス、旧大連航路上屋、関門海峡ミュージアム、白野江植物公園、潮風号、関門汽船、栄町商店街、三宜楼、門司電気通信レトロ館、九州鉄道記念館
- ・ 下関エリア（6 か所）：長府庭園、長府毛利邸、かもんワーフ、海峡ゆめタワー、旧秋田商会ビル、旧下関英国領事館

事業名：瀬戸内海国立公園（関門海峡）の振興と関門海峡マイスターの構築

関門 DMO は 2024 年度、環境省九州地方環境事務所からの受託事業として「瀬戸内海国立公園（関門海峡）ストーリー検討業務」を実施しました。同業務では、来訪者の動向および自然・観光資源を整理し、自然と人の営み、地域の歴史文化を複層的に伝えるストーリーとブランディングテーマを取りまとめました。

本年度は、この成果を観光コンテンツとして具体化する取組を進めました。関門海峡エリアの自然を体感できる体験型ツアーを企画するとともに、エリア内の周遊を促す認定制度「関門海峡マイスター」を新たに構築しました。

「関門海峡マイスター」認定制度

瀬戸内海国立公園（関門海峡エリア）の魅力向上を目的として、関門 DMO が独自に構築した認定制度です。全 5 コースのツアーすべてに参加された方を「関門海峡マイスター」として認定し、限定番号入りのキーホルダーを進呈しました。5 コースを一括して申し込む認定プランのほか、各ツアー単独での参加も可能とし、参加者の関心および日程に応じて選択できる形としました。

実施ツアーの概要（全 5 コース）

- ・ 下関の海産物および地域で捕獲されたジビエを活用した食体験
- ・ 森林インストラクターの解説による霊鷲山での植物観察（往復約 9km）
- ・ 下関市立歴史博物館学芸員の解説による博物館見学および関門海峡クルージング
- ・ 高低差 110m、全長約 7km の低山コースを踏破するハイキング
- ・ ハンター同行による有害鳥獣対策の現場見学および給餌体験

事業名：インフラツーリズムの推進と連絡会議の設立

近年、訪日外国人旅行者の増加とリピーター化に伴い、旅行者のニーズは定番の観光地を巡る形から、その土地固有の体験を重視する形へと多様化しています。一方、関門海峡エリアでは、下関市と北九州市が海峡を挟んで位置していることから、両市をまたぐ周遊が十分に進んでいないことが長年の課題となっていました。関門 DMO が実施した 2024 年の来訪者分析では、北九州市を訪れた訪日外国人旅行者のうち、下関市まで訪問した割合は約 20%にとどまっています。両市は地理的に近接しており、周遊による滞在時間の延伸と観光消費の拡大が期待できる一方、現状ではその効果を十分に取込みできていない状況にあります。

関門海峡エリアには、本州と九州を結ぶ関門橋、海底を貫く関門トンネル、国際貿易を支えてきた港湾施設、日本の通信の歴史を伝える門司電気通信レトロ館など、地域の発展を支えてきたインフラが集中しています。関門 DMO は、両市を物理的に結ぶこれらのインフラ群を観光資源として活用することにより、海峡を越えた周遊を促す取組を進めています。

○取組の考え方

インフラツーリズムとは、橋梁、トンネル、港湾、通信施設など、日常では意識されることの少ない社会基盤を観光資源として活用する取組です。ダムや橋梁の見学ツアーとして知られる形態が一般的ですが、その本質は、暮らしを支えるインフラの価値を再認識することにあります。

本取組は、来訪者と地域住民の双方に向けたものです。来訪者に対しては、関門海峡が「海をまたぐまち」であるという固有の特性を伝える手段として、また地域住民に対しては、自らの暮らしを支えるインフラの意義を再認識し、地域への誇りを育む機会として位置づけています。

○関門海峡インフラツーリズム推進連絡会議の設立

インフラツーリズムの推進には、管理主体の枠を越えた連携が不可欠です。関門橋および人道トンネルは西日本高速道路株式会社（NEXCO 西日本）、港湾は国土交通省および両市、通信施設は西日本電信電話株式会社（NTT 西日本）と、施設ごとに管理者が異なります。関門 DMO は、これらの管理者間の連携の場として「関門海峡インフラツーリズム推進連絡会議」を設立しました。

本連絡会議は、2025 年 11 月に開催された第 16 回関門市長会談において、両市がインフラを活用した関門エリアの魅力向上に協力・支援することで合意したことを受け、その推進体制として発足したものです。インフラ管理者、自治体および観光事業者が参画し、取組の共有と連携を図っています。

事業名：地域共通クーポン「かんもん Pay」事業

関門 DMO は 2023 年度、関門海峡エリアにおける地域周遊の促進を目的として、地域内の加盟店で利用できる共通クーポン「かんもん Pay」の提供を開始しました。プレミアム率は 10%とし、1,000 円の購入で 1,100 円分を利用できる仕組みとしています。

2024 年度からは、ふるさと納税の返礼品としての取扱いを開始し、寄附を通じた地域への経済的還元にも活用しています。あわせて、個人観光客向けの販売にとどまらず、旅行会社が取り扱う団体旅行や修学旅行、地域研修事業との連携など、利用機会の拡大を図ってきました。

これらの取組を通じて、「かんもん Pay」を核とした地域内消費の喚起を図り、観光客の利便性向上と地域経済の活性化に努めています。

2. エリアマーケティング事業

山口県下関市と福岡県北九州市という異なる行政区域にまたがる関門エリアでは、これまで観光客の動向を一体的に把握することが困難な状況にありました。この課題に対応するため、関門 DMO は両市の来訪者データを統合し、共通の基準により観光客の行動パターンおよび属性の可視化を進めました。これにより、関門エリア全体の観光市場を一体的に捉えることが可能となり、地域マネジメントの高度化を図っています。

事業名：観光入込客数の把握と分析基盤の構築

関門 DMO は、関門海峡エリアへの来訪実態を把握するため、公益社団法人日本観光振興協会が提供する「デジタル観光統計オープンデータ」の活用を開始しました。同データは日本国内に居住する観光目的の来訪者を対象とし、近隣からの来訪や通勤目的の移動を除いた入込客数を把握できるため、日常生活圏外からの観光来訪者を両市共通の基準で捉えることが可能となりました。

事業名：観光 DX 対応とデータ分析基盤の構築

関門 DMO は、関門海峡エリアの周遊を促進するコンテンツの造成を進め、国内外のオンライン旅行会社（OTA）を活用した販路の拡大に取り組んでいます。
--

2024 年度には、関門周遊フリーパスの提供、「かんもん Pay」のふるさと納税返礼品としての取扱い開始、予約管理システム「Bokun」を活用した既存コンテンツの内容改善に着手しました。本年度もこれらを継続し、各コンテンツの流通拡大を図りました。

あわせて、販売および利用のデータを DMP（データマネジメントプラットフォーム）に蓄積し、分析結果を地域全体で共有することで、マーケティングの PDCA サイクルによる改善を図る体制を整備しました。可視化されたデータに基づく効率的な資源配分により、関門エリア全体の観光誘客と地域経済の活性化に努めています。

3. 地域観光商品の開発

関門 DMO は、着地型ツアーの造成および交通事業者との連携による誘客に向けた取組を実施し、地域事業者と連携した旅行商品の開発を通じて、地域の観光商品の充実を図りました。造成したコンテンツは、関門海峡エリアの歴史・文化および産業を活用した日本遺産関連コンテンツ、橋梁やトンネル等の社会基盤を活用した「インフラツーリズム」、瀬戸内海国立公園の自然環境と地域の文化を組み合わせた「アドベンチャーツーリズム」の 3 分野です。多様な観光資源を活用して地域の魅力を発信し、来訪の促進に取り組みました。

事業名：日本遺産「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」を活用した広域連携コンテンツの造成

長崎街道は、江戸時代に海外貿易の窓口であった長崎と小倉を結んだ街道です。この街道沿いの地域には、西洋や中国との貿易により流入した砂糖や外国由来の菓子が数多くもたらされ、独特の食文化が形成されました。こうした歴史的背景から、長崎街道は「シュガーロード」とも呼ばれています。

この街道が育んだ砂糖文化のストーリーは、令和 2 年（2020 年）6 月 19 日、文化庁により日本遺産に認定されました。認定は、長崎市、諫早市、大村市、嬉野市、小城市、佐賀市、飯塚市および北九州市の 8 市が、シュガーロード連絡協議会を通じて申請したものです。同協議会は平成 20 年（2008 年）10 月に設立され、8 市を中心に長崎・佐賀・福岡の 3 県および菓子業界、関係機関が参画しています。

街道の東端にあたる小倉（北九州市）には、街道の起点とされた常盤橋や、砂糖文化を今に伝える金平糖、くろがね羊羹などの構成文化財が所在しています。長崎から東へ砂糖文化が伝わった経路としてみれば、関門海峡エリアはその到達点であり、同時に本州へと文化が広がる結節点でもありました。関門 DMO は、この地理的・歴史的な位置づけを活かし、海峡を越えて下関へと続く周遊を促すことを目的として、本事業に取り組みました。

【事業の枠組み】

本事業は、観光庁「ストーリーで繋ぐ地域のコンテンツの連携促進に向けた実証調査」の採択を受けて実施したものです。関門 DMO は、シュガーロード連絡協議会および公益財団法人ながさき地域政策研究所と連携し、日本遺産のストーリーを軸とした広域周遊コンテンツの造成を進めました。

【コンセプト】

NAGASAKI KAIDO: The Sugar Road — The Alchemy of Acceptance

海外からもたらされた砂糖という「外来のもの」を拒まずに受け入れ、街道沿いの各地で独自の菓子文化へと転化させた歴史を、「受容」と「錬金術」という二語に込めています。異文化を受け入れ、自らのものへと作り変えてきた営みは、街道の終着点である関門海峡エリアにおいても、近代以降の港湾都市の形成という形で重なります。

【ターゲット市場】

- ・ 香港およびシンガポールを中心とする中華圏の富裕層
- ・ 香港市場における小学生から高校生までの教育旅行（遊学）

【ターゲット設定の考え方】

九州は香港から航空機で約3時間30分の距離にあり、直行便も多く、アクセス環境が良好です。同市場は訪日経験を重ねたリピーターの割合が高く、東京・大阪等の定番ルートとは異なる、より深い体験や新たな訪問先を求める成熟した市場となっています。

加えて、本ストーリーは同市場の関心と重なる要素を有しています。近世長崎における貿易は対中貿易が中心であり、輸入された砂糖は中華街の形成にもつながりました。中華文化と日本の文化が融合した「和華蘭（わからん）文化」、そして街道の終着点の対岸で近代外交の舞台となった下関（日清講和条約）へと連なる歴史は、アジア史への関心が高い同市場の旅行者に対し、二国間関係の変遷と近代化の歩みを現地で辿る体験を提供するものです。

次年度以降は、Experience Manager および地域事業者と連携してコンテンツの内容を充実させるとともに、国内外のDMCと連携した誘客に取り組みます。

事業名：関門海峡の歴史および信仰文化を体感できる着地型コンテンツ事業

関門 DMO は、関門海峡の歴史および信仰文化を体感できる着地型コンテンツとして、九州最北端に位置する和布刈神社（めかりじんじゃ）の特別拝観を核とした日帰りツアーを造成しました。通常は非公開である拝殿への参入と神職による講話を組み込み、海峡がもたらしてきた恵みと、江戸期から近代にかけての門司港の歩みを一日で辿る行程としています。

【ツアーの主な内容】

- ・ 和布刈神社における通常非公開の拝殿での特別拝観および神職による講話
- ・ 関門海峡で採取される「献上わかめ」の授与
- ・ 料亭における献上わかめおよび関門海峡のふくを用いた特別メニューの提供
- ・ 門司港レトロ観光線（潮風号）への乗車
- ・ 門司港レトロエリアで利用できる地域通貨「かんもん Pay」の付与

4. 地域住民に対する観光地域づくりに関する取り組み

関門 DMO は、地域住民が観光地域づくりに参画し、その意義への理解を深めることを目的として、各種のプログラムを実施しました。観光に関するセミナーや勉強会、教育プログラムを開催し、地域の関係者とともに持続可能な観光のあり方について検討を進めました。これらの活動は、地域住民と来訪者が共存し、ともに地域の魅力を高めていくための基盤となるものです。あわせて、次世代を担う子どもたちが地域への理解と誇りを持つ機会としても位置づけ、取組を進めています。

事業名：授業やセミナー等の取り組み

関門 DMO の職員等が北九州市内の小中学校および大学等を訪問し、観光をテーマとした授業を行っています。地域の観光資源や来訪者の動向を教材として扱うことにより、児童・生徒および市内で学ぶ大学生が、暮らしの場あるいは学びの場としての地域を捉え直し、愛着を深める契機とすることを狙いとしています。あわせて、観光が地域経済において果たしている役割や、観光に関わる仕事の実態を伝え、将来の進路を考える材料を提供しています。

こうした教育活動は、日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の指標「A8 観光教育」が求める、地域コミュニティおよび児童・生徒を対象とした観光教育の実践に位置づくものです。

○地域課題解決型探究学習

- ・ 福岡県立門司学園高等学校
- ・ 2025 年 6 月 4 日(水)、7 月 11 日(金)、10 月 22 日(水)、12 月 10 日（水）、2026 年 2 月 19 日(木)

○夢授業（キャリア教育研究会）

- ・ 本城中学校（2025 年 6 月 6 日）
- ・ 西小倉小学校（2025 年 6 月 10 日）
- ・ 星琳高等学校（2025 年 6 月 13 日）
- ・ 永犬丸小学校（2025 年 6 月 16 日）
- ・ 福岡教育大学附属小倉中学校（2025 年 6 月 18 日）
- ・ 井堀小学校（2025 年 6 月 24 日）
- ・ 沖田中学校（2025 年 6 月 26 日）
- ・ 若園小学校（2025 年 6 月 30 日）
- ・ 篠崎中学校（2025 年 7 月 15 日）
- ・ 門司区 3 校合同（2026 年 1 月 23 日）
- ・ 大里東小学校（2026 年 2 月 3 日）

- ・ 香月中学校（2026 年 2 月 4 日）
- ・ 下関市立長府中学校（2026 年 3 月 13 日）

○関門エリアを“もっと面白くする”ワークショップ

- ・ 中国経済連合会・九州経済連合会
- ・ 2025 年 10 月 31 日(金)

○マイナビ ツール・ド・九州 2025×LOCUS 探究学習

- ・ 西南女学院高等学校 2025 年 9 月 18 日（出張講義）

○折尾愛真短期大学 非常勤講師

- ・ 2025 年 9 月～2026 年 1 月 講義 15 回(商品開発：観光商品・旅行商品)

○関門エリアの観光戦略

- ・ 一般社団法人北九州青年会議所
- ・ 2025 年 5 月 9 日

○その他

- ・ 100 人カイギ 2025 年 4 月 20 日
- ・ 下関北九州道路整備促進大会 2025 年 8 月 19 日

事業名：総合的な探究の時間～フィールドスタディ

門司港レトロ地区を対象とした学校等のフィールドスタディを受け入れ、現地での学習機会を提供しています。参加する児童・生徒を将来の来訪者と捉え、地区の歴史的建造物や街並みの価値を伝えるとともに、観光産業の役割や仕事の内容を紹介し、進路の選択肢として認識される機会とすることを目的としています。

- ・ 山口県立華陵高等学校（山口県下松市）
- ・ 2025 年 8 月 29 日(金)